

技術ノート

中高年男性の加齢による体型変化に対応したスラックスの製品開発

藤田 薫子\*1) 平山 明浩\*1) 黒田 良彦\*1) 秋田 実\*2)  
 天津 いずみ\*3) 涌井 彰子\*3)

Product development of slacks that correspond to figure changes in middle and advanced aged men

Kaoruko FUJITA, Akihiro HIRAYAMA, Yoshihiko KURODA, Minoru AKITA, Izumi AMATSU, Akiko WAKUI

1. はじめに

21世紀を迎え高齢化が進む中、中高年齢の男性も生活やおしゃれを楽しむ時代が到来している。しかし市場では女性や若年男性の衣料は氾濫しているが、中高年の男性をターゲットとした衣料の開発は遅れている。原因の一つは中高年特有の体型についての詳細データがないことである。

そこで既存の計測データの他に、ターゲットモニター(中高年男性のA B体型、B体型など)の計測を行い、詳細データを入手、これをもとに体型をカバーするシルエットや機能、着心地を重視した衣料、特にスラックスの開発を行い、既存の製品との差別化をはかる。オーダーでカバーしていたニーズに対して既製品での製品提供を可能とし、新しいメンズ市場を開拓することを目的とした研究である。

2. 内容

2.1 モニターによる体型計測

- ・調査人数：51名(ウエスト85cm以上、身長160cm以上、40~60歳代男性)
- ・調査方法：マルチン計測器による体型計測52項目(長さ：12ヶ所、幅：21ヶ所、周囲長：19ヶ所)を計測。

計測ポイントは体型変化の著しい下半身の詳細データを得ることで、ハイウエスト、ミドルウエスト、ウエスト、ミドルヒップ、ヒップ位置等、細かいピッチで計測した。

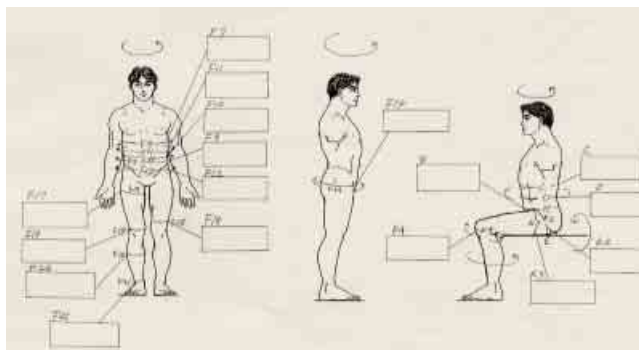


図1 体型計測

2.2 モニターによるグループインタビュー

ファッションに関心のある中高年男性6名(40歳代~60歳代)に愛用しているスラックスの特徴、ファッションテイスト、購買動機等、10項目についてインタビューを実施し、製品のコンセプトについて検討した。



図2 グループインタビュー

2.3 モニターによる既成品の試着試験

既成品春夏10点、秋冬11点について、試着してもらい、着脱、動きやすさ、デザイン、ディテール、シルエット等について5段階(非常に良い~悪い)で評価してもらい意向、嗜好について抽出した。

既製品評価シート 既製品NO.1  
 着用者氏名(本欄 様) 年齢( ) サイズ( 体)

大項目	評価項目	着用本人評価				
		非常によい	まあまあよい	普通	あまりよくない	悪い
		5	4	3	2	1
着やすさ	着脱		○			
	デザイン				○	
ディテール	ポケット位置				○	
	ポケット角度				○	
シルエット	裾幅				○	
	裾上げ				○	
動きやすさ	歩行		○			
	階段		○			
生地	肌触り				○	
	厚さ				○	
	重さ				○	

表1 既成品評価シート

\*1) アパレル技術グループ(現生活科学グループ)  
 \*2) アパレル技術グループ(現製品科学グループ)  
 \*3) 有限会社ケイポイント

## 2.4 モデル体型のボディ作成

上記の調査結果を受け、特に体型的特徴を持ったA B体型モデルとB体型モデルについてリアル体型データをもとに試作用スラックス作成のためのボディ設計を行った。

既成ボディにウレタンを貼り付け、周囲長(A B体型変形：ミドルウエスト 87cm、ウエスト 90cm、ミドルヒップ 99cm、ヒップ 102cm)(B体型変形：ミドルウエスト 97cm、ウエスト 99cm、ミドルヒップ 110cm、ヒップ 115cm)のボディ設計を行った。



図3 ボディ設計

## 2.5 立体裁断によるパターン作成

上記ボディを基に、シーチングによる立体裁断を行い、スラックスのシルエットを抽出した。留意点としてヒップ位置から太股にかけて無理なく細く見える、腹囲がすっきり見えるシルエットの2点に重点をおいた。

- ・シルエット1：S形状ライン(図4.左)  
骨格の形状に合わせ太股から、ふくらはぎへかけて、ややSカーブを描くシルエット
- ・シルエット2：ストレートライン(図4.中)  
膝下から裾口まで直線で落とすストレートなラインのシルエット
- ・シルエット3：スリムライン(図4.右)  
ヒップの余分なゆとりを取りフィット感を高め、裾口にかけて徐々に細くなるシルエット



図4 選定シルエット

デザインはワンタック、ツータックの2タイプ、ディティールは前ウエスト位置を2cm下に、斜め脇ポケット、ベルトループ8本とした。またウエストベルトにアジャスト機能を内蔵(2~4cm伸縮)し、腹囲のゆとりを確保した。

## 2.6 モニターによるサンプル試着試験

サンプルを着用し、着脱の容易性、しゃがむ、かがむ、歩行、階段の上り降り等、日常動作の確認を含め10項目の5段階評価(非常に良い~悪い)を調査した。

## 2.7 パイヤーヒアリング

ファーストサンプルの試着評価を基に修正を行い、セカンドサンプル試着試験、修正を経て、パイヤーによる商品評価(デザインや着心地、機能性、商品精度、等を5段階で評価)を受け、プライス、販売方法などを決定した。

- ・企業では12,800円上代、通販、およびテレビショッピング等での商品提供を予定している。

## 3. 結果

- ・体型計測によるリアルデータでは、立位と座位とではウエスト寸法に2~4cmの差がみられた。
- ・年齢が上がるにつれ太股から足首までの周囲長は、かなり細くなっており、筋肉の落ち方がみられる。腹囲が太く極端に足が細い体型特徴が確認された。
- ・カジュアルとビジネス両方に対応でき、日常動作の楽な製品、またイージーケア性とストレッチ性は不可欠であるという意向が確認された。
- ・体型をカバーしながらすっきり見えるシルエット、コーディネートが容易であることが嗜好として確認された。
- ・体型データに基づいたボディ設計と、このボディを使用した立体裁断により、体型特徴をカバーし、すっきり見えるシルエットの製品提案が可能となった。
- ・サンプル試着試験結果では、着心地、デザイン、シルエット、日常動作ともに好評価が得られた。

## 4. まとめ

中高年男性の体型的特徴、ユーザーの意向、嗜好等について明確に捕らえることができた。これにより今までオーダーやお直しでカバーしていたニーズに対して希望に合った製品の提供が可能となった。また体型変化に対応したパターンのサイズ展開(グレーディング)も容易となり、製品展開を進める上でデータベースとして活用可能となった。

この研究成果は、企業の製品販売を確認後、アパレル企業に向けた技術支援に活用し、新市場開拓の一助としたい。

### 参考文献

- 1) (社)人間生活工学研究センター；成人男子の人体計測データ,62(1996)
- 2) 婦人子供服工業組合；スカート、パンツの縫製仕様,139(1994) (原稿受付 平成16年8月6日)